



朝のラジオ体操



朝の申し送り風景

朝の申し送りからスタート

本号で密着取材させていただいたのは、当院C6（認知症治療病棟）の作業療法士・竹内さん。その慌ただしくも波乱万丈な一日を紹介していきます。

第30回

常仁会 ドキュメント The 舞台裏

当院の舞台裏を潜入レポートする本企画。
今回はC6病棟の作業療法士・竹内さんの
一日に密着取材してきました。

朝のラジオ体操

申し送りが終わると、朝のラジオ体操が行われる。
ホールに出て、のびのびと身体を動かす竹内さん。みんなが心身の活動性をアップできるよう、サポートが必要な患者さんにはさりげなく介助したり声をかけたりと、細やかな目配りがうかがわれる。
その後は、ホワイトボードに今日の日付とコメントを記入される。これは「R・O（リアルタイム・オリエンテーション）ボード」と呼ばれ、認知機能の低下した患者さんにも、現在の場所や時間といった見

当識を認識してもらったための工夫だ。毎回、季節感のあるコメントを書くように心がけているという。

トイレ誘導、塗り絵、園芸

午前からお仕事は盛りだくさんだ。介助が必要な患者さんのトイレ誘導を行った後一息つく間もなく、塗り絵や園芸といった作業を患者さんと一緒にこなしていく。認知機能の低下から混乱されている患者さんにも冷静に対応する竹内さん。
さすが経験豊かな専門職だと感服的一幕だった。



トイレ誘導



塗り絵



患者さんとチューリップに水やり



R・Oボードを書く竹内さん

グループ回想法

午前最後のプログラムはグループ回想法だ。
他のスタッフ数名と協働して、昔の思い出話を患者さんと共有する「語らいの会」を毎週行っている。
記憶力が低下した患者さんであっても、昔のことはよく覚えておられることが多く、当時の話をともに語らいながら穏やかなひと時を過ごしていただくのが目的だ。
竹内さんもグループに参加しながら、ティータイムには隣の患者さんと和気あいあいと談笑しておられた（患者さんの素敵な表情を載せられないのが残念！）。



回想法ティータイム



回想法の司会をつとめるスタッフMさん

午後のゲームと、振り取り

午後は毎週、さまざまなゲームをされている。
本日は、釣り糸の先に磁石の付いた竿で磁気シート製の魚を釣っていく「魚釣りゲーム」だった。
ルールが分かりやすいゲームを皆でやることによって、安心感を持ちながら気分転換になると同時に、集団への参加にも慣れていたのだったという。
こうして午後のゲームが終わった後も、プログラムの振り返り、患者さんへの補水、その他個別の関わり、記録、書類整理などの業務に追われる竹内さんだった。

お仕事への思い

お仕事で苦労される点と、やりがいを感じられる点について聞かせてください。

「状況判断が難しい患者さんだと、こちらが説明しても分かっていたはず、頭では分かっているけど大変だったり、辛かったりすることがあるのも事実です」
「それでも、いろいろと工夫することやうまく関われるようになって、その人らしい良い一面が出てきたときは嬉しいですね。入院される前の普段の様子が見えたり、それを感謝してくださったり……」

⑥ たくましくも温かい竹内さん、これからも是非一緒にお仕事させてください!!
(取材と原稿 ▼ 臨床心理士 名倉)

取材協力



竹内 嘉代 (たけうち かよ)



振り取りと記録に追われる



魚釣りゲームをサポート